

July 30, 2021

【前日の為替概況】ドル円、反落 米 GDP や新規失業保険申請件数が弱い内容でドル売り先行

29日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は109.48円と前営業日NY終値(109.91円)と比べて43銭程度のドル安水準だった。4-6月期米国内総生産(GDP)速報値が前期比年率6.5%増と予想の8.5%増を下回ったほか、前週分の米新規失業保険申請件数が40.0万件と予想の38.0万件より弱い内容となったことで全般ドル売りが先行。パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長が前日にテーパリング議論を慎重に進める姿勢を示したことから、この日もドルが売られやすい地合いとなり、4時過ぎには一時109.42円と日通し安値を更新した。20日の安値109.33円や一目均衡表雲の下限が位置する109.30円がサポートとして意識された面もあるが、戻りは鈍かった。

ユーロドルは4日続伸。終値は1.1887ドルと前営業日NY終値(1.1845ドル)と比べて0.0042ドル程度のユーロ高水準だった。低調な米経済指標の結果が伝わると、全般ドル安が進行。緩和的な米金融政策が長期化するとの見方が広がる中、一時1.1893ドルと日通し高値を更新した。ただ、1.19ドルの大台には届かなかった。低調な米7年債入札などを受けて、米長期金利が上昇傾向を維持したことなどが上値を抑えた。

ユーロ円は小反落。終値は130.14円と前営業日NY終値(130.19円)と比べて5銭程度のユーロ安水準。ユーロドルの上昇につれた買いが入り一時130.56円と本日高値を付けたものの、ドル円の下落につれた売りが出ると130.09円付近まで押し戻された。

メキシコペソ円は上値が重かった。米国株高に加えて、原油先物価格の上昇を背景に産油国通貨とされるペソには買いが先行。23時過ぎに本日高値となる5.54円まで値を上げた。ただ、米格付け会社ムーディーズがメキシコ政府による国営石油会社ペメックスへの巨額支援を懸念する中、「同国のヨリオ財務次官がペメックスへの支援を継続する意向を示した」と伝わると失速。ドル円の下落につれた売りも出て、4時30分過ぎには5.51円付近まで下押しした。

【本日の東京為替見通し】ドル円2カ月ぶりの109円割れトライか、緊急事態宣言延長などが重し

本日の東京時間のドル円の上値は限られるか。昨日のドル円は前日のパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の会見や、弱い米国の経済指標の影響で弱含んだ。今月も先月もドル円は109.00円割れをトライするものの、109円は5月26日以来割り込んでいないことで、手堅い実需勢や、レンジを決め切って取引をしている本邦個人投資家などは109円台前半が買い場と見込み、東京時間に109円前半まで下落すればそれなりの買い意欲が出てくると思われる。また、月末の5・10日(ゴト一日)ということ考えると、東京仲値を中心に買いが優勢になることもありそうだ。

一方で、昨日の弱い米経済指標の翌日にドル円を買い上げるような地合いでもないだろう。また、米株式市場が上昇して引けているにもかかわらず、東京都の緊急事態宣言延長を嫌気しCME225先物は前日の大阪取引所比では下落して引けていることで、株売りでドル円やクロス円が重くなる可能性もある。米国での新型コロナウイルス・デルタ株の感染拡大も重しになるか。日本時間早朝にはバイデン米大統領が、感染が拡大するデルタ株についての記者会見を行ったが、今後もさらに感染が拡大することやワクチン接種をしていない労働者のマスク着用義務などの必要性を述べた。会見後の質疑応答では、感染拡大阻止について、マスクやワクチンの義務化についての厳しい質問が続くと、バイデン大統領はいら立ちを隠せない状態になり、それだけ現在の米国のデルタ株蔓延が深刻になりつつあることを態度で示していた。

アジア時間では本邦から複数の経済指標が発表されるが、この数年に渡り本邦の経済指標は、市場の反応が限られていることで、本日も同様な状況になるか。NY時間に入ると本日は6月米個人消費支出(PCE)が最大の注目となる。FRBはインフレ指標として消費者物価指数(CPI)よりも、調査対象が広く、代替効果の調整や対象品目がより柔軟なPCEをより注視していることで、今回も指標結果次第で大きく動くだろう。特にここ最近の地合いや、FRB議長がインフレは一時的としていることで、弱い結果となった場合の市場の反応には敏感になりそうだ。

欧州通貨は仏・ユーロ圏のCPI、独のGDP速報値など重要指標が欧州入り後に発表されることで、東京時間はドル円の動きや株価の動向で上下するだろうが、トレンドを作るのは難しそうだ。また、本日は月末ということで、ロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングを含めた特殊玉でも大きく動きが左右されるだろう。なお、先月末のロンドンフィキシングはドル買いが優勢となっている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 6月完全失業率（予想：3.0%）
- 08:30 ◎ 6月有効求人倍率（予想：1.10倍）
- 08:50 ◎ 6月鉱工業生産速報（予想：前月比5.0%/前年比20.7%）
- 08:50 ◇ 6月商業販売統計速報（小売業販売額、予想：前年比0.2%）
- 14:00 ◇ 6月新設住宅着工戸数（予想：前年比7.2%）
- 19:00 ◇ 外国為替平衡操作の実施状況（介入実績）

<海外>

- 10:30 ◎ 4-6月期豪卸売物価指数（PPI）
- 未定 ◎ 4-6月期シンガポール失業率（予想：2.9%）
- 14:30 ◎ 4-6月期仏国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比0.8%）
- 14:30 ◇ 6月仏消費支出（予想：前月比1.4%）
- 15:45 ◇ 7月仏消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比▲0.1%/前年比1.0%）
- 16:00 ◇ 7月スイスKOF景気先行指数（予想：130.0）
- 16:00 ◇ 6月トルコ貿易収支（予想：29億ドルの赤字）
- 17:00 ◇ 7月ノルウェー失業率（予想：2.9%）
- 17:00 ☆ 4-6月期独GDP速報値（季節調整済、予想：前期比2.0%/前年同期比9.6%）
- 17:00 ☆ 4-6月期独GDP速報値（季節調整前、予想：前年同期比9.6%）
- 17:30 ◎ 4-6月期香港GDP速報値（予想：前期比▲0.8%/前年同期比7.8%）
- 18:00 ◎ 6月ユーロ圏失業率（予想：7.9%）
- 18:00 ☆ 7月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比2.0%）
- 18:00 ☆ 7月ユーロ圏HICPコア速報値（予想：前年比0.7%）
- 18:00 ☆ 4-6月期ユーロ圏GDP速報値（予想：前期比1.5%/前年比13.2%）
- 20:00 ◎ 4-6月期メキシコGDP速報値（予想：前期比1.7%/前年比19.8%）
- 21:00 ◎ 6月南アフリカ貿易収支（予想：520億ランドの黒字）
- 21:30 ☆ 5月カナダGDP（予想：前月比▲0.3%/前年比14.8%）
- 21:30 ◇ 6月カナダ鉱工業製品価格（予想：前月比▲0.4%）
- 21:30 ◇ 6月カナダ原料価格指数
- 21:30 ◎ 6月米個人消費支出（PCE、予想：前月比0.7%）
- 21:30 ◎ 6月米個人所得（予想：前月比▲0.3%）
- 21:30 ☆ 6月米PCEデフレーター（予想：前年比4.0%）
- 21:30 ☆ 6月米PCEコアデフレーター（予想：前月比0.6%/前年比3.7%）
- 21:30 ☆ 4-6月期米雇用コスト指数（予想：前期比0.9%）
- 22:00 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
- 22:45 ◎ 7月米シカゴ購買部協会景気指数（予想：64.6）
- 23:00 ◎ 7月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、確報値、予想：80.8）

8月2日

- 10:45 ◎ 7月Caixin中国製造業購買担当者景気指数（PMI）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

29日 16:48 カブジュオール・トルコ中銀総裁

「第2四半期の成長が強いことをデータが証明している」

「雇用は増加し続けると予想」

「経常収支は第2四半期に改善し始める」

29日 16:51

「引き締めの姿勢は断固として維持されるだろう」

「インフレは6月に上限まで上昇した」

30日 01:23 ポルトガル政府

「レストランや小売店の営業時間の短縮を撤廃する」

「日曜日以降、一部の自治体で実施されている夜間外出禁止令を解除」

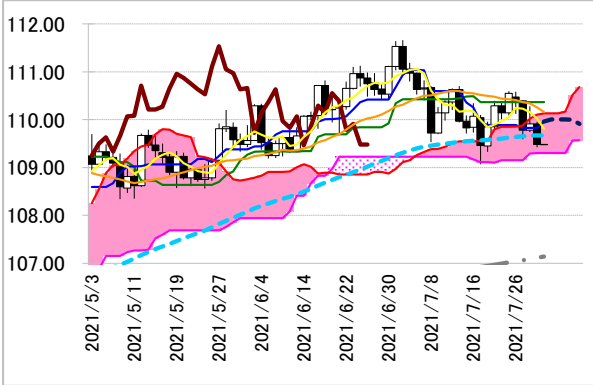
「9月初旬から、屋外でのマスク着用の義務化を終了する」

30日 03:34 ヨリオ・メキシコ財務次官

「メキシコ政府は国営石油会社ペメックスへの支援を継続する」

※時間は日本時間

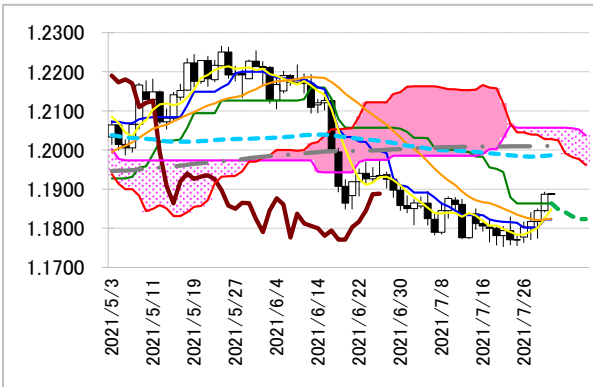
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝転換線前後は維持できず、雲の下限を試す展開>

陰線引け。一目均衡表・転換線前後の底堅さを維持できなかった。109.67円前後で推移する90日移動平均線も下抜け。一目・雲を再び上抜く狙いは一転、雲の下抜けを試す展開となっている。雲の下限109.30円を割り込み、19日安値なども近くに位置する109円付近を試す展開も念頭に置いておきたい。戻しても、109.80円台で推移している5日移動平均線付近で動きが重くなりそうだ。

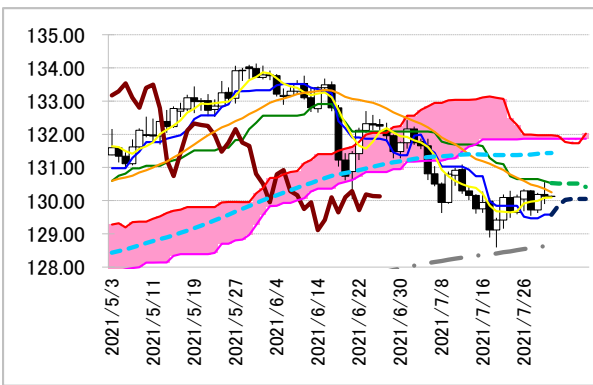
レジスタンス1	109.81(5日移動平均線)
前日終値	109.48
サポート1	109.07(7/19安値)
サポート2	108.56(5/25安値)



<ユーロドル＝サポート期待したい基準線が来週にも低下へ>

陽線引け。一目均衡表・基準線1.1864ドルを上抜け、一時1.1893ドルまで上昇した。6月30日以来、約1カ月ぶりとなる1.19ドル台をうかがう様相となっている。ただ、上抜けて抵抗からサポートへ転じることが期待される基準線は、週明けには低下へ向かう見込み。反落した場合に下げ渋りそうな水準が切り下がる公算。1.1850ドル付近で上昇中の5日移動平均線が代わって支えになることを望むが、一目・転換線1.1823ドル付近までの下落も視野に入れて臨みたい。

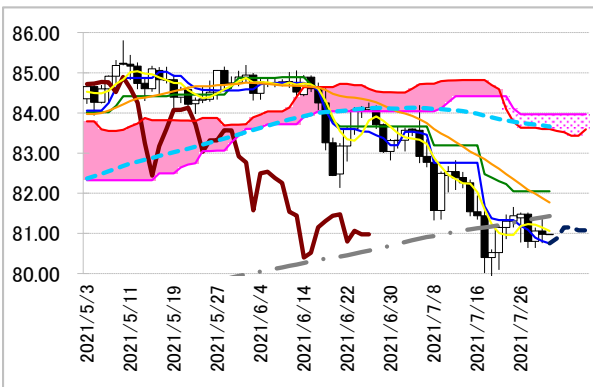
レジスタンス1	1.1948(5/25-7/21下落幅の38.2%戻し)
前日終値	1.1887
サポート1	1.1823(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロ円＝基準線・21日線を試すも押し返される>

小陰線引け。一時130.56円と13日以来、2週間ぶり以上の水準へ上振れた。しかし、一目均衡表・基準線目前で押し返されている。130.30円前後で低下中の21日移動平均線を下回ってNYを引けた。本日130.53円へ小幅に低下し、切り下がりが続く見込みの基準線と、上昇中の一目・転換線の交差が予想される130.23円前後へ収れんする流れか。低下中の21日線に追随する下押しも想定でき、本日129.58円に位置する転換線を試す場面はあるかもしれない。

レジスタンス1	130.53((日足一目均衡表・基準線)
前日終値	130.14
サポート1	129.58(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円＝転換線が底打ちへ、200日線の回復を狙う>

小陰線引け。低下傾向の一目均衡表・転換線を追うように下振れる場面も交えた不安定な推移が続いた。しかし転換線は本日、昨日安値と同じ水準80.75円へ低下したところで底打ちし、週明けには上昇へ転じる見込み。同線の上昇とともに、81.40円台で上昇中の200日移動平均線の回復をうかがう展開を予想する。

レジスタンス1	81.66(7/23高値)
前日終値	80.98
サポート1	80.64(7/27・28安値)

